

八幡宮社

大原野石作地区にある静かな八幡宮社は、一般的に長峰八幡宮と呼ばれています。祭神は国の守護神として崇められる八幡（第 15 代天皇である応神天皇）と皇室の祖神とされる天照大神です。長峰八幡宮の創建年は不明ですが、10 世紀の風俗や格式が説明されており、当時存在していた 2861 の神社が記載されている「延喜式」に書かれている石作神社の位置に建っているのではないかと推測されています。

石作神社とそこ祭神との関係

石作神は、江戸時代（1603 年～1867 年）まで石作神社に祀られていましたが、現在は長峰八幡宮から東に歩いてすぐの大歳神社に祀られています。石作神は貴族の石棺を彫った石作氏の祖神です。彼らは、日本の第 11 代天皇である垂仁天皇（紀元前 69 年～西暦 70 年）の後である日葉作姫の棺を作り、その功績により高い位である「大連」を授与されたと言われています。

境内

現在の長峰八幡宮の特徴は八幡神社の典型的なもので、八幡神の神聖な使者である一對の鳩の木彫りと鳩の石像があります。また、本殿は、古墳時代（300 年～538 年）後期のものと思われる小さな古墳の上に建てられています。神社の土台の右側にある穴から、古墳の内部の一部を見ることができます。境内には珍しい鹿子の木 3 本と高さ 30 メートルで樹齢 900 年とされる楠の御神木が生えています。